



ポ ー ア イ NEWS

2016 summer issue



一般財団法人 神戸マリナーズ厚生会

PORTISLAND HOSPITAL
ポ ー ト ア イ ラ ン ド 病 院

発 行 日 / 平成28年8月

制 作・編 集 / 広報委員会



● 病院理念

ひかり輝く心身であれ
患者さまの
立場になって考えよ
責任をもって行動せよ

● 基本方針

- 複合施設** 都市群において、医療・介護・福祉を一体として提供いたします。
- 地域密着** 神戸市中央区、とりわけポートアイランド内の住民に対する身近な医療の安心を提供いたします。
- 後方支援** 急性期後の患者さまを在宅まで橋渡しをいたします。
- 教育実習** 学生実習・卒業後の就職の場として近隣の医療大学などと提携いたします。
- 国際交流** 主に東南アジアなどの医療・介護関連の学生を積極的に受け入れます。

● コラム

在宅医療への取り組み

患者様が家で暮らす「在宅療養」と「訪問診療」の目的と位置づけ。

最近の人口動態の速報値で日本の人口の約25% (4人に一人) が65歳以上の高齢者であることが示されました。私たちの国はもう高齢者社会に突入しているわけです。当然何らかの病気で療養されている方は増加の一方をたどり、また重度の疾患を複数持つ方も目立ってきています。小生が医師となって37年余り。この間にご縁のあった患者様はもう数えられません。また、お見送りをさせていただいた患者様も1500人を超えていると推定します。今後はさらに病気療養の必要な患者様は増加の一方をたどることが予想されます。

反面、病院や入所介護施設はむしろ減らしてゆくという医療介護施策が進められ、入院療養に厳しい制限がかかってまいります。そうすると、「療養の主座は居宅に」という事になってきます。一方患者様の側から鑑みれば、例えば入院されてこられた患者様に「これからどうしたい?」と尋ねると十中八九「早く家に帰りたい」という返事が返ってまいります。また、入院中に何かと問題行動を起こされる方に「どうされたのですか?」と尋ねるとしばしば「今から家に帰るんや」とのお返事が返ってまいります。さ

らに、高齢の方が通院されるにしても、介助の方の付き添いを要し、かつ医療機関での待ち時間の長さはもう忍耐の限界に達しつつあるといっても過言ではないでしょう。結果通院診察回数の減少となり、わずかな病状の変化を捉えづらくなり、病状急変で緊急搬送という事になることも少なくないと思います。つまり、政策側からも受療者側からも在宅療養のニーズは少なからずあるものと推定されます。これらを基盤に作り上げられたのが「地域包括ケア構想」という枠組みです。在宅療養は、最近の家庭事情で実現できる事例は極めて少ないのが実情ですが、今後支援制度の充実によって漸次増加をたどってゆくものと推定します。



内科 人位 晃

地域包括ケア構想とは様々な職種が患者様を取り巻き、必要に応じて各職種が連携をしながら在宅療養を支援してゆく仕組みです。訪問診療もこの枠組みの大切な要素です。私たちポートアイランド病院も今後在宅訪問診療の取り組みを始めるべく準備を進めています。



【在宅医療の良いところ、問題点そして将来像】

私ども医療人にとって在宅医療の最大のメリットは患者様の病気だけを見るだけではなく生活をも含めたヒトの全体像を把握できるという事です。居宅でどのように生活できているのかを観察し分析してその情報を他の職種と共有してより有効な資源を在宅生活に投入し、より質の高い療養生活を提供する起点となり得る訳です。一方、病院など医療機関とは異なり様々な高度検査機器を持ち込むことが困難なため、患者様の病態の変化を主に身体診察から把握せねばならず、在宅診療を実践するにはそれなりの臨床経験と幅広い視野が必要なことです。もう一つ、忘れてはならないのは家族の視点です。多職種がかかわるというものの、主たる療養生活支援者はやはり家族です。ほぼ1日24時間、患者支援にかかわらねばならないことは、肉体的精神的にも大きな負荷(ストレス)となります。

そこを少しでも緩和するのが、介護サービスでのショートステイや通所介護であったのですが、今年度から医療の面でも介護者の負担緩和を目的とした仕組みが出来てきました。それが、この春から本院に設置された「地域包括ケア病棟」です。専門用語では「レスパイト入院」というものです。また、重篤ではないが在宅では対応困難な病態の悪化に対して、高度急性期病院への受診ではなく本病棟での療養で対応し在院日数の縛りの緩やかななかで、時間をかけて在宅復帰に向けて行く事を目指しています。制度的には始まったばかりで、今後いくつかの改変・修正がかかるものですが、時間をかけて地域の包括ケアを育ててゆく契機になってくれればと祈念しています。皆様のご理解とご支援が何よりの力と感じています。

ポアイトOPICS

Ⅰ 地域包括ケア病棟

人口構成や人口動態の変化により、“治す”「従来型医療」から、高齢者に多い“治し・支える”「生活支援型医療」へと移行しています。地域包括ケア病棟は「医療と介護の架け橋」となることを期待されています。

当院も『自宅から来られた患者様は自宅に帰っていただく』をモットーに平成28年4月より34床の病棟を開設しました。急性期治療後の医療やリハビリテーションを提供し、病院スタッフが地域と連携しながら多職種で「チーム」を作り、自宅退院に向け積極的に在宅への援助をさせていただきます。又、自宅退院には「少し不安」と言う患者様やご家族様には、いろいろな施設等のご案内やご相談もお受け致します。病棟の入院期間は最長60日間です。一人でも多くの方が住み慣れた地域で暮らし続けられるように、地域と密着した医療・看護を展開していきます。



Ⅱ 地域包括ケア病棟の機能

- ① 自宅療養している方のレスパイト入院
- ② がん化学療法やがん緩和ケア患者様の受け入れ
- ③ 人工透析・摂食機能療法を受ける患者様
- ④ 糖尿病教育入院

POINT
左記の様に生活支援があまり必要でない患者様の受け入れも可能です。

Ⅲ 在宅・生活復帰支援について

当病棟では治療と同時に看護師・リハビリスタッフ・薬剤師・管理栄養士、ソーシャルワーカー(MSW)、又ケアマネージャーと連携・連絡を取り、1日でも早く自宅に帰れるようお手伝いをしています。

住み慣れた地域でその人らしい自立した幸せを最後まで続けられる社会。その実現の為のお手伝いをさせていただくのが、**地域包括ケア病棟**です。



レスパイト入院

入院といえば、何らかの病気を治療するために行われるものという認識が一般的だと思います。しかし在宅療養をされている方の家族の休憩を目的とした、特別な入院「レスパイト入院」というものがあるのをご存知でしょうか？

レスパイトとは「休憩」の意味をもつ英語であり、自宅療法を受けている患者の家族

が、一時的な外出や休憩、その他の介護を続けられない期間をサポートする目的で行われている医療サービスです。入院期間は約2週間程度であり、入院期間終了後は必ず自宅へ戻ることが条件となります。レスパイト入院では、介護保険ではなく医療保険を利用することができ、医療保険を利用しているため、本来の入院と同様の料金となります。



主な退院先は在宅や
在宅に準ずる施設

・自宅 ・ケアハウス ・グループホーム ・特別養護老人ホーム
・サービス付き高齢者住宅

*老人保健施設は含みません

ポアアイ職場通信 Vol.11

第23回 地域医療セミナーを開催しました

転倒と骨折—大腿骨頸部骨折—

大腿骨頸部骨折は股関節の付け根の骨折のことを言います。高齢者の骨折の中で、大腿骨頸部骨折が占める割合は非常に高く、当院にも多くの方が入院されております。その大腿骨頸部骨折について、今回は当院の整形外科医である工藤先生にご講演して頂きました。当日は荒天でしたが、多くの参加者様にお集まり頂きました。次回も是非楽しみに！

セミナー委員会



見た目も
涼しい

“リンゴのはちみつゼリー”

ほどよい甘さでのどを潤すにきました(●^o^●)

☆カリウム・リンが低いので透析患者さまにもおすすめです♪

*材料(4人分)

○ゼラチン 2g
○お湯 200ml
○はちみつ 32g
○砂糖 4g
○レモン汁 8g

*りんごのコンポート

○りんご 40g
○砂糖 4g
○レモン汁 4g

*作り方

1. お湯にゼラチンを溶かす。
2. 1にはちみつ、砂糖、レモン汁を加えてよく混ぜる。
3. 粗熱をとって容器に流し込み、冷蔵庫で冷やす。
4. りんごは皮を剥いて、薄く切り、レモン汁をなじませる。
5. 4に砂糖を加えて、りんごの皮と一緒に鍋で弱火で柔らかくなるまで煮詰める。
6. 固まったのはちみつゼリーにりんごのコンポートを乗せて完成。



1人当たり
エネルギー 39kcal
タンパク質 0.4g/カリウム 15mg
リン 1.6mg/食塩 0g